

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 26 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26380930

研究課題名(和文) 緊張性と防衛性に配慮した心理劇技法と評価方法の開発

研究課題名(英文) Development of the technique intending to reduce the participants' tension and resistance in psychodrama session

研究代表者

古賀 聡 (KOGA, Satoshi)

九州大学・人間環境学研究院・准教授

研究者番号：00631269

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：心理劇は即興劇を用いる集団心理療法のひとつである。心理劇はすべての参加者の自発性と創造性によって成り立っているのである。つまり、治療として用いるにしても、教育として用いるにしても、心理劇の適用における重要な側面は集団の凝集性と受容性である。本研究の目的は参加者が緊張感や抵抗感を抱かずに心理劇に参加することを可能にする効果的な技法の開発である。様々な検討の結果、参加者の心理的状态を配慮した心理劇の適用が重要であることが示された。特に、心理劇の経験があまりない参加者に対しては参加者が場面を想像しやすい言語・非言語刺激を用いるソシオドラマ(社会劇)の技法が有効であることが示唆された。

研究成果の概要(英文)：Psychodrama is one of the action method that used as group psychotherapy. Psychodrama session is depending on the spontaneity and creativity of all participants. The purpose of this research was to develop effective techniques that clients could participate in the psychodrama session without their tension and resistance. Results suggested that it is essential to select the psychodrama technique with the consideration for participants' state of mind. Especially, it is necessary to consider the self-expression of clients with less experience of psychodrama session. Therefore, Sociodrama techniques would be effective in the period of introduction of sessions. The purpose of sociodrama is to explore the social issues through the application of psychodramatic techniques. In conclusion, it is suggested that experience of multiple types of role-playing in psychodrama and sociodrama is effective for participants to improve their spontaneity, interpersonal relationships, and future prospects.

研究分野：臨床心理学

キーワード：心理劇 サイコドラマ ソシオドラマ

## 1. 研究開始当初の背景

現在社会は豊かな消費社会、高度な情報社会と呼べるが、その経済的豊かさ、情報量の豊かさの一方で、我々は多様な心の問題に直面している。社会的にも非常に注目されることの多い臨床心理学領域であるが、本邦の臨床心理学的アプローチの多くが、個人を対象とし言語を媒介とする手法が用いられている。しかし、ヒトの心は生活のなかで行為や動作を伴いながら動いていくものであり、多様な他者との交流のなかで動いていくものである。本研究の対象である心理劇は、集団を対象とし、行為、動作など総合的な自己活動を対象としている。

臨床心理学は疾患や障害に対する治療的介入として活用されるだけでなく、今後は健康支援や予防的介入にも活用されるべきであり、コミュニティや人と人とのつながりを支え、疾患や障害をもちながらも Well-being (主観的幸福感、よりよく生きる) が保障される社会の構築に活かされるべきだと考えられる。共生社会の実現や障害や疾患の有無に関わらずすべての人に Well-being が保障される社会の構築には、科学的根拠にもとづいた心理社会的サービスの開発が必要だと思われる。今後の臨床心理学がめざすのは、相談室(密室)における対話カウンセリング以外のアプローチの開発であると言えるだろう。つまり、集団心理療法の臨床研究や基礎研究の発展が期待されることである。

集団心理療法の一つである心理劇は様々な領域の臨床現場において用いられているにも関わらず、心理劇の実証的研究は未だ稀少であり、今なお多くの検討の余地が残されている。心理劇の形態や構造に応じた質問紙尺度の開発やビデオ評定による客観的評価方法の開発は、心理劇の科学的発展に寄与することが期待される。本研究は、臨床実践から着想を得て、心理劇のさらなる有効性と安全性を高めるための評価方法を構築するための「実践性と科学性の循環的統合(下山,2000)」を図る基盤研究である。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、集団心理療法のひとつである心理劇の実践において、対象者の緊張や抵抗(防衛的態度)の緩和を促す技法の開発である。具体的には、集団場面に対する緊張感、あるいは役割演技といった自己表現が求められることへの防衛的態度を緩和するようなサイコドラマの新たな技法を開発すること、対象者の緊張性や防衛性を緩和し、自発性を高めるような言語的・非言語的題材を用いたソシオドラマの新たな技法を開発することである。

集団心理療法の一つである Psychodrama (サイコドラマ)は、モレノ.J.によって創始され、日本には1950年代に紹介された。Psychodrama は心理劇と訳され、医療、教育、福祉、矯正などの領域で展開した。アメ

リカ集団精神療法学会・心理劇学会では、個人の葛藤に焦点を当てて過去の人間関係から分析的介入を行うサイコドラマと社会の役割関係に焦点を当てて心理教育的な介入を行うソシオドラマを明確に区別している。しかし、日本においては、サイコドラマ、ソシオドラマ、ロールトレーニングなどのアクション・メソッドの総称として「心理劇」という用語が用いられ、対象や目的に応じて即興劇を用いるこれらのアクション・メソッドが柔軟に使い分けられてきたという歴史がある。直接的で、露骨な感情表現に抵抗を感じやすい日本人の国民性に応じて、日本独自の心理劇が発展してきたとも言えるだろう。また、筆者は精神科医療領域や発達臨床領域において心理劇の臨床実践に取り組み、臨床研究として報告してきた。これらの臨床研究から、心理劇的手法を対象の特性やセラピーの目的に応じて使い分けることが治療効果に大きく影響することが示唆された。

そこで、以下の大きな2点を目的とした。  
(1) 緊張感と防衛的態度を緩和するようなサイコドラマ技法の開発

サイコドラマは個人の認知、感情、内的対象関係を即興劇という形式で外在化し、実感をもたう自己洞察や役割関係再構築を援助する。しかし、そのような働きかけに対して抵抗や戸惑いを感じる人も多い。そこで、サイコドラマの一技法であるマジックショップを題材にして集団の凝集性や自発性を高め、主役(クライエント)の緊張感や防衛的態度を緩和する技法を開発し、適用上の工夫や効果について検証する。またサイコドラマは主役の葛藤を扱うことが多く、そのことが演者の抵抗や防衛的態度を引き出す可能性があるため、解決志向アプローチの理論や技法を用いたサイコドラマ技法の開発を試みる。

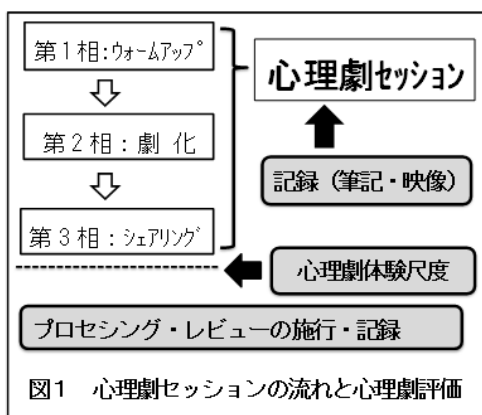
(2) 言語的・非言語的題材を用いたソシオドラマ技法の開発

ソシオドラマはサイコドラマとは異なり個人に焦点化せず、集団が抱える社会的課題や役割関係上の葛藤に焦点を当てる。つまり、グループリーダー(監督:ディレクター)がどのようにテーマを提示するかが非常に重要である。そこで、グループの緊張性を緩和しテーマの検証や解決に向けた積極的な参加を援助するためのテーマ提示の方法について検討する。具体的には、言語的刺激を用いたソシオドラマとして俳句を題材とした心理劇、非言語的刺激を用いたソシオドラマとして絵画・写真を題材とした心理劇について実践検討を行い、適用上の工夫や効果について検討する。

## 3. 研究の方法

心理劇の構造について、簡潔に説明する。心理劇の展開としては、集団の緊張性を緩和し親和性や凝集性を高める第1相:ウォームアップ、役割演技や役割交換法(ロールリバ

ーサル)二重自我法(ダブル),鏡映法(ミラー)などの技法を用いながら劇が展開される第2相:劇化,即興劇の体験を整理しグループメンバーで共有する第3相:シェアリングの3つの段階がある(図1)。そして,本研究においては,この第3相までの流れを記録,ビデオ記録を行ったものを質的データとする。さらに,第3相のシェアリング修了後に心理劇体験尺度等を用いて心理劇体験についての自己評定もデータとする。さらに,心理劇セッションの終了後にあらためて心理劇体験について振り返るようなセッションを設けて,セッション中には意識化することができなかった自己理解や他者理解についてデータを収集する。



(1) 集団場面への緊張や自己表現への抵抗を緩和するサイコドラマの技法の開発

【マジックショップにおける集団の自発性と凝集性を高める技法の開発と効果の検討】

サイコドラマの古典的技法であるマジックショップは,主役(客)が希望する性格・感情・特性を手に入れることができる。抽象概念をプレイフルに外在化し,自己の内的特性や希望に対する洞察へと導く技法である。主役の自己開示が求められるこの技法において,主役の緊張感や防衛性を緩和するために観客を含む集団全体の自発性や凝集性を引き出すような技法を開発し,その効果について心理劇体験尺度を用いて検証する。

【解決志向アプローチを用いたサイコドラマ技法の開発と効果の検討】

サイコドラマは,主役の葛藤や否定的感情に強く焦点化されやすく,そのことが心理劇への抵抗や防衛的態度を引き出す場合がある。そこで,問題に焦点化せず,その人の潜在的な希望や能力,可能性に焦点化し主体的な解決へと導く解決志向アプローチの技法(例外的質問,ミラクルクエスチョン等)を組み込んだ心理劇技法を開発し,その効果を心理劇体験尺度を用いて検証する。

(2) 言語的・非言語的の刺激を題材としたソシオドラマの技法の開発

【言語的の刺激(俳句)を題材としたソシオドラマ技法の開発と効果の検討】

俳句は日本固有の定型短詩であり,幅広い年代において馴染み深い。5-7-5の定型や季

語の存在が心理的枠組みを与えることによって,統合失調症等の自我水準の問題を抱える人にも適応しやすく,俳句を用いた心理劇の可能性が事例研究によって示されている(園村・古賀,2006)。俳句を題材とするソシオドラマ技法を開発しその効果を検証する。

【非言語刺激(絵画・写真)を題材としたソシオドラマ技法の開発と効果の検討】

認知症高齢者や発達障害児・者を対象とした心理劇を用いた支援ではサイコドラマの適用は難しく,ソシオドラマ的方法が用いられることが多い。しかし,感覚機能の低下や認知障害を抱える人へのソシオドラマの適用においては,ソシオドラマのテーマの提示方法がとて重要である。そして,注意や認知の困難を抱える人への教示は視覚的媒介を用いることが有効である。そこで,絵画や写真等の視覚刺激を用いたソシオドラマの展開について検討する。

#### 4. 研究成果

##### (1) 大学生の家族関係理解を目的とする心理劇における緊張性と防衛性を緩和する技法の開発と評価

アクティブラーニングや体験的学習理解の観点から心理劇を高等教育のなかで用いられることが多い。特に教職や臨床心理士や看護師などの対人援助職の養成課程においては,家族関係や対人関係の発達に関する学習は,専門的知識の教授に加えて学生自らの経験も統合しながらの学習が求められるからである。しかし,様々な日常の関係が交錯している大学生同士が個々人の経験を心理劇場面のなかで表現化することを求められた際に緊張感や防衛的態度を示すことは予測される。そこで,大学生を対象とした心理劇,ロールプレイングセッションを通して,心理劇体験尺度の作成し,彼らが安心して地自発性を維持しながら心理劇に参加できるような配慮と工夫について検討した。

その結果,大学授業においては,安易に個人の家族背景を露呈するようなサイコドラマの展開を行わず,演じる大学生がイメージしやすいような家族場面を設定するソシオドラマやロールプレイングの実施が有効であることが示された。演者自身が実際に経験していない家族場面においても,役割交換法や鏡映法等の心理劇技法の展開により,学生は自分自身の家族体験を参照しながら,教職や対人援助職に求められる家族構成員のそれぞれの立場や心情についての新たな気づきが得られることが示された。また,このような展開のなかで緊張性や防衛性が緩和されることが,質問紙,セッション後のインタビューによって示された。青年期に当たる大学生の時期は「子ども」から「大人」へと移行する時期であり,自己理解を深め,他者の立場や心情を推察し,さらに葛藤や不条理性を含む人間関係への理解が進む時期である。このような課題に直面する大学生において

心理劇は有効なアプローチだと考えられるが、個人の生活史をあらわにさせるサイコドラマ的展開には抵抗や戸惑いが生じやすい。そこで、普遍的な人間関係のテーマを題材とするソシオドラマは特定の個人に直面化を求めることがなく、大学生の心理教育を安全に効果的に進める優れたアプローチであることが明らかになった。ソシオドラマは類型化された人間関係に個人の経験を投映させて人間関係への理解を深める方法であるが、特に役割交換法（ロールリバーサル）は大学生の他者、特に親への心情や立場に関心が向くきっかけになることが示唆された。

#### 【成果の根拠】

雑誌論文：（白濱・岩男・古賀,2017）,（白濱・江頭・五位塚・古賀,2017）,（岩男・古賀,2017）,（塚本・古賀,2017）,（岩男・古賀,2016）,（岩男・古賀,2015）  
学会発表：（藤山・古賀,2017）,（白濱・向・岩男・古賀,2017）,（岩男・古賀,2016）,（白濱・岩男・古賀,2016）,（岩男・下池・古賀,2015）,（岩男・古賀,2015）

### （2）サイコドラマ・マジックショップにおける補助自我機能の操作による主役・演者の緊張性と防衛性を緩和する技法の開発と評価

主役個人に焦点を当てるサイコドラマにおいては、主役の緊張感や防衛性に配慮した展開が極めて重要である。主役が自発性を発揮して創造的な活動のなかで自己洞察が深まるように監督（セラピスト）は工夫しなければいけない。そこで、サイコドラマの古典的技法であるマジックショップの展開にアレンジを行い、その効果について心理劇体験尺度やインタビューを用いて検証した。

マジックショップとは心理劇の古典的技法のひとつであり、性格や能力などの抽象概念が魔法の店において購入できるという設定で劇が展開される。マジックショップの展開を通して、願望の成就、隠れた個人的な欲求への洞察、創造的適応への探索などが経験される。大学生を対象とした心理劇において、主役と補助自我である店主の対話を中心とした典型的なマジックショップ、主役の希望の実現化を援助するために観客が魔法の間屋として劇に参加するマジックショップ、魔法の水晶としてミラー技法を展開するマジックショップの3タイプの比較を行った。心理劇体験尺度を用いた検討では、観客を補助自我（魔法の間屋）として劇参加を促すマジックショップにおいて「劇場面への積極的な関心」「メンバーとの一体感」の得点が高いことが示された。心理劇の補助自我機能を働かせることによって、参加者全体の安心感や共感性を高め、それが主役の自己洞察を深めることに寄与することが示された。

#### 【成果の根拠】

雑誌論文：（下池・古賀,2017）,（下池・池田・古賀,2016）

学会発表：（下池・古賀,2017）,（下池・古賀,2015）,②（下池・古賀,2014）

### （3）解決志向アプローチを用いて主役の緊張性や防衛性を緩和するサイコドラマ技法の開発と効果の検討

個人に焦点をあてるサイコドラマでは、主役の抱える葛藤に直接的に焦点をあてて、自己洞察や問題解決を図るのに優れた方法であるが、その効果は同時に主役にとって侵襲的な体験となる危険もある。つまり葛藤への直面化は主役の緊張感や防衛的態度を強める可能性が高い。そこで、解決志向アプローチの技法や考え方を取り入れた心理劇の展開を試みた。解決志向アプローチの代表的な技法である「ミラクル・クエスチョン」を用いて心理劇を実施した。大学生にとって、手の届く理想的な一日を想起させ即興劇へと展開した。その過程で、主役は生き生きとした感情を経験しながら、日常生活で意識化しなかった何気ない行動や他者の存在に気づき、自身の生活について再任することが示された。つまり、直接に主役が抱える葛藤や課題に焦点化せずに、すでに上手くできた例外的経験や現実的状况をいったん考えないことで展開する希望的状况や理想的生活を即興劇として取り上げることにより主役の緊張性や防衛性を緩和することが示された。

#### 【成果の根拠】

雑誌論文：（古賀,2015）  
学会発表：（古川・古賀,2017）,①（古賀,2016）

### （4）言語的刺激（俳句）を題材としたソシオドラマ技法の開発と効果の検討

ソシオドラマで扱う社会的場面や役割関係についてのテーマ教示については、ソシオドラマで取り扱おうとする目的や方向性を適度に暗示しながら即興劇としての自由な展開を可能にする多義性が必要となる。そこで、定型短詩である俳句を題材とした心理劇の展開について検討を行った。俳句の用いることによって、提示されたテーマに関する個人的な経験がない参加者にとっても、俳句の季語の存在によって季節折々の情緒が喚起されることが示された。さらに、その過程においては防錆性や緊張感が緩和され、安全に懐かしさなどの情緒的体験が展開することが示された。俳句を用いる利点として、季語により季節感や情緒的雰囲気や方向づけられ、その枠組みのなかで安全に劇を展開することが示唆された。また、俳句は限られた文字数の表現であり、表現されていない部分を補うための多義的な解釈が可能であるとも言える。つまり、ひとつの俳句からさまざまな役割関係がイメージされ、そこに参加者の創造性が発揮される可能性が示唆された。

#### 【成果の根拠】

雑誌論文：（池田・古賀,2017）（古賀,2015）

学会発表：（池田・岩男・下池・古賀,2015）,  
②（古賀,2015）

#### （5）非言語刺激を題材としたソシオドラマ 技法の開発と効果の検討

心理劇テーマの教示における非言語刺激の検討のなかで、白紙を用いてそれを思い出の写真に見立てるといふ写真相想イメージ技法を考案した。心理劇の題材となる回想は概念や命題として保存されていることが多く、視覚的イメージが求められる劇化プロセスにおいてスムーズに展開できず、緊張性や防衛性を高めてしまうことがある。そこで、白紙を思い出の写真と見立てることによって、視覚的イメージを活性化させ、そのイメージを行為表現や役割演技に展開する技法を考案した。写真という一瞬の静止的状況の説明から主役はイメージアップを進めていくため、主役にとって侵襲的な体験になりにくく安全に劇を展開できる技法であることが確認された。また、写真イメージから劇化へと展開する手続きをマニュアル化することができたため、比較的心理劇経験の少ない実践者でも安全に心理劇を展開できることが示唆され、この発見は心理劇のさらなる発展に寄与することが考えられる。この技法は、回想ドラマ療法と命名し、研究代表者の新たな重要な研究テーマとして発展している。

【成果の根拠】

学会発表：（岩男・清島・古賀,2017）

#### （6）臨床ニーズをもつ参加者の緊張性や防衛性に配慮した心理劇についての事例研究

以上の研究のなかで開発された心理劇技法を臨床実践のなかで活用した。認知症高齢者の心理劇的技法を用いた回想法グループ、統合失調症者、アルコール依存症者を対象とした集団心理療法グループのなかで、サイコドラマ、ソシオドラマ、ロールプレイングの技法を適宜用いることにより、安全に注目すべき効果が得られることが示された。アルコール依存症者には、解決志向アプローチや鏡映法（ミラー法）を用いて彼らの防衛性を刺激しないサイコドラマ技法が有効であることが示された。統合失調症による長期入院患者には外界の変化という自然の移り変わりを感じながら、安全に他者との交流を実現化する俳句を用いた心理劇の有効性が示された。認知症高齢者に対しては、絵画や回想のヒントとなるような玩具など非言語的の提示が有効であることが示された。

【成果の根拠】

雑誌論文：（古賀,2015）

学会発表：（江頭・重橋・古賀,2015）,②  
（古賀,2015）

引用文献

下山晴彦（編）2000 臨床心理学研究の技法 福村出版

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計12件)

池田恭子, 古賀 聡, 下池洸史朗, 岩男尚美, 俳句を用いた心理劇が懐かしさの体験に及ぼす影響に関する検討 心理劇におけるグループ体験尺度を用いて - , 心理劇研究, 第40巻, 1-13, 2017, 査読有.  
白濱あかね, 岩男尚美, 古賀 聡, 進路相談場面のロールプレイングを用いた親の態度に対する青年の認知についての検討, 心理劇研究, 第40巻, 29-41, 2017, 査読有.  
下池洸史朗, 古賀 聡, マジックショップの展開における補助自我の機能の違いが参加者の心理劇体験に及ぼす影響, 心理劇研究, 第40巻, 69-82, 2017, 査読有.  
白濱あかね, 江頭愛, 五位塚和也, 古賀 聡, 進路選択における親子間コミュニケーションと大学生のアイデンティティ形成および親子関係認知の関連, 九州大学心理学研究(九州大学大学院人間環境学研究院紀要), 第18巻, 73-83, 2017, 査読有.  
岩男尚美, 古賀 聡, ソシオドラマを通じた親役割理解と自己の親子関係の振り返り, 九州大学心理学研究(九州大学大学院人間環境学研究院紀要), 第18巻, 85-95, 2017, 査読有.

山村鈴奈, 岩男尚美, 古賀 聡, グループ場面における意見の共通性・差異性への注目と自己認知の関連, 九州大学心理学研究(九州大学大学院人間環境学研究院紀要), 第18巻, 117-125, 2017, 査読有.

塚本駿, 古賀 聡, 子ども時代のファンタジー体験と大学生の共感性の関連 - クリスマスの心理劇を通して -, 心理劇研究, 第39巻, 17-26, 2016, 査読有.

岩男尚美, 古賀 聡, 大学生を対象としたソシオドラマにおけるピアレビュー・セッションの意味, 心理劇研究, 第39巻, 39-50, 2016, 査読有.

下池洸史朗, 池田恭子, 古賀 聡, マジックショップにおける「魔法の間屋」の導入が参加者の心理劇体験に及ぼす影響, 心理劇研究, 第39巻, 65-74, 2016, 査読有.

岩男尚美, 古賀 聡, ソシオドラマにおける役割交換法が大学生の親子関係認知に与える影響, 心理劇研究, 第38巻, 15-27, 2015, 査読有.

瀬里和花, 水貝洵子, 北野洋子, 古賀 聡, 重度認知症高齢患者グループにおける心理劇の導入, 心理劇研究, 第38巻, 47-57, 2015, 査読有.

古賀 聡, 生涯発達と臨床心理劇～孤立・停滞・絶望とどう向かうのか～, 心理劇, 第20巻, 39-45, 2015, 査読無.

〔学会発表〕(計22件)

藤山奈々, 古賀 聡, 心理劇体験レポートの分析を通じた生活史の再編とレジリエ

ンスの検討, 西日本心理劇学会第 42 回福岡大会, 平成 29 年年 3 月 5 日, 西日本短期大学 (福岡県福岡市)

古川依里香, 古賀 聡, ミラーを通じた未来イメージの効果の検討-日常の 1 場面に着目して-, 西日本心理劇学会第 42 回福岡大会, 平成 29 年年 3 月 5 日, 西日本短期大学 (福岡県福岡市)

岩男尚美, 清島恵, 古賀 聡, 思い出の写真の回想ドラマを用いた大学生の家族理解, 西日本心理劇学会第 42 回福岡大会, 平成 29 年年 3 月 5 日, 西日本短期大学 (福岡県福岡市)

白濱あかね, 向晃佑, 岩男尚美, 古賀 聡, 青年にとって主張と共感のどちらが重要となるのか-進路選択のロールプレイングを用いた検討-, 西日本心理劇学会第 42 回福岡大会, 平成 29 年年 3 月 5 日, 西日本短期大学 (福岡県福岡市)

向晃佑, 白濱あかね, 古賀 聡, 発達障害児のための集団心理療法のグループカンファレンスを通じたセラピストの変化 - 言語的なカンファレンスと心理劇の比較を通して -, 西日本心理劇学会第 42 回福岡大会, 平成 29 年年 3 月 5 日, 西日本短期大学 (福岡県福岡市)

志方亮介, 五位塚和也, 古賀 聡, 発達障害特性を示す児童へのグループセラピーにおける他者への積極性を活かした心理劇的アプローチの検討, 西日本心理劇学会第 42 回福岡大会, 平成 29 年年 3 月 5 日, 西日本短期大学 (福岡県福岡市)

下池洸史朗, 古賀 聡, 基本技法の組み合わせによる補助自我機能の検証, 西日本心理劇学会第 42 回福岡大会, 平成 29 年年 3 月 5 日, 西日本短期大学 (福岡県福岡市)

志方亮介, 古賀 聡, 認知症高齢者を対象としたグループ回想法における行為表現の意味, 日本心理臨床学会第 35 回秋季大会, 平成 28 年 9 月 5 日, パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市)

下池洸史朗, 古長治基, 遠矢浩一, 古賀 聡, 思春期・青年期の発達がい者へのグループセラピーの展開 (1) - 過度な配慮性と対人緊張の緩和に着目して -, 日本心理臨床学会第 35 回秋季大会, 平成 28 年 9 月 5 日, パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市)

古長治基, 下池洸史朗, 古賀 聡, 遠矢浩一, 思春期・青年期の発達がい者へのグループセラピーの展開 (2) - 「クライアント企画」による自己の趣向性と他者の視点の統合の試み -, 日本心理臨床学会第 35 回秋季大会, 平成 28 年 9 月 5 日, パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市)

岩男尚美, 古賀 聡, ソシオドラマを通して青年はどのような親心に気づくのか, 西日本心理劇学会第 41 回大分大会, 平成 28 年 2 月 14 日. ホルトホール大分 (大分県大分市)

白濱あかね, 岩男尚美, 古賀 聡, ロール

プレイングを用いた青年期の進路選択における親の態度の検討, 西日本心理劇学会第 41 回大分大会, 平成 28 年 2 月 14 日. ホルトホール大分 (大分県大分市)

塚本駿, 下池洸史朗, 古賀 聡, 自閉症スペクトラム症児・者を対象とする心理劇実践者の意図と工夫, 西日本心理劇学会第 41 回大分大会, 平成 28 年 2 月 14 日. ホルトホール大分 (大分県大分市)

重橋のぞみ, 古賀 聡, 心理劇への参加体験が援助者の統合失調症者理解に与える影響, 西日本心理劇学会第 41 回大分大会, 平成 28 年 2 月 14 日. ホルトホール大分 (大分県大分市)

江頭愛・重橋のぞみ・古賀 聡, 統合失調症者の心理劇に参加した看護師の患者理解の変容, 2015 年日本リハビリテーション心理学会大分大会, 平成 27 年 11 月 13 日, 大分県労働福祉会館 (大分県大分市)

岩男尚美・下池洸史朗・古賀 聡, 集団療法における社会的役割関係への焦点化と個人特性への焦点化, 日本心理臨床学会第 34 回秋季大会, 平成 27 年 9 月 18 日, 神戸国際会議場 (兵庫県神戸市)

池田恭子・岩男尚美・下池洸史朗・古賀 聡, 心理劇体験尺度による俳句を題材とした心理劇の検討, 日本心理臨床学会第 34 回秋季大会, 平成 27 年 9 月 18 日, 神戸国際会議場 (兵庫県神戸市)

水貝洵子・古賀 聡, 対人関係に困難さを有する思春期女兒への心理劇的手法を用いたグループの実践, 平成 27 年 2 月 22 日, 中村学園大学 (福岡県福岡市)

岩男尚美・古賀 聡, ソシオドラマを通じた大学生の家族への気づき-振り返りセッションの発話データの分析-, 平成 27 年 2 月 22 日, 中村学園大学 (福岡県福岡市)

下池洸史朗, 古賀 聡, マジックショップにおける補助自我のあり方が参加者体験に及ぼす影響-KJ 法的手法を用いた自由記述データの分析-, 平成 27 年 2 月 22 日, 中村学園大学 (福岡県福岡市)

①古賀 聡, シンポジウム: ライフサイクルに寄りそう心理劇 成人期~停滞からの脱却をめざす心理劇~, 平成 27 年 2 月 22 日, 中村学園大学 (福岡県福岡市)

②下池洸史朗, 古賀 聡, マジックショップにおける展開が心理劇の参加体験に及ぼす影響 - 役割演技体験とグループ体験の視点からの検討 -, 日本心理臨床学会第 33 回秋季大会, 平成 26 年 8 月 26 日, パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

古賀 聡 (KOGA, Satoshi)

九州大学大学院人間環境学研究院・准教授  
研究者番号: 00631269